"Kyodo-Sankaku"

共同参画

"Kyodo-Sankaku"
Number 98
February 2017
Japan Cabinet Office
2

内閣府

Special Feature

特集／国際女性会議WAW!（World Assembly for Women：WAW! 2016）—今年のテーマは「WAW! for Action」。女性の活躍推進に関する国内外の「行動」を国際社会が共に学び合い、今後の「行動」の加速化につなげる—

主な予定

Schedule

1月12日～2月28日	「男女共同参画週間」キャッチフレーズ募集
3月8日	農業の未来をつくる女性活躍経営体100選表彰（WAP100）（東京都千代田区）
3月9日	農業女子PJアワード2016（東京都千代田区）

巻頭言

共同参画に寄せて

Foreword

OECD東京
センター所長
村上 由美子

Murakami Yumiko

OECD（経済協力開発機構）では、客観的な統計を国際比較可能な形で集計・分析し、政策提言を行っている。そのような統計から、男女共同参画が経済成長の重要な鍵であるという客観的な事実が明白に浮かび上がってくる。たとえば、男女共同参画率と一人当たりのGDPには正の相関関係がみられ、男女間の賃金格差の少ない国ほど、国民全体の経済格差も少ないという統計もある。民間企業においては、女性幹部登用と収益率の相関関係が観察される。更に、女性の国会議員比率が高い国ほど、政権に対する国民の信頼感が高いという調査結果もある。近年、日本女性の就業率はOECD平均レベルまで向上した。しかし、女性の就業が真の意味で男女共同参画となる為には、女性の能力が男性同様に活用される環境が必要である。多様な能力、価値観などが交わることが化学反応をおこし、それがイノベーションを産み、生産性を上げ、競争力に繋がっていく。この好循環を作り上げていくための様々な施策を官民連携で全力で推し進めていくことが必要である。

共同参画
"Kyodo - Sankaku"
Number 98
2
February 2017

目次

Contents

特集	国際女性会議WAW!（World Assembly for Women：WAW! 2016） ―今年のテーマは「WAW! for Action」。女性の活躍推進に関する国内外の「行動」を国際社会が共に学び合い、今後の「行動」の加速化につなげる―	Page 02
行政施策トピックス1	平成28年度「女性が輝く先進企業表彰」	Page 06
行政施策トピックス2	「農業における女性・若者の活躍推進に向けたG7国際フォーラム」が開催されました	Page 08
行政施策トピックス3	東アジア家族・男女担当大臣フォーラムについて	Page 10
行政施策トピックス4	平成28年度　パートタイム労働者活躍推進企業表彰の受賞企業と事例集について	Page 11
行政施策トピックス5	「男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会（第2回、第3回）」の開催	Page 12
連載	女性の経済的エンパワメント・各国の取組⑩　「好きの搾取」と賃金／大西　祥世（立命館大学法学部教授）	Page 13
取組事例ファイル（団体編）	「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者の取組 斎藤　保（株式会社IHI　代表取締役会長（兼）最高経営責任者） 永野　毅（東京海上ホールディングス株式会社　取締役社長　グループCEO） 新浪　剛史（サントリーホールディングス株式会社　代表取締役社長） 韓　裕（株式会社マルハン　代表取締役社長）	Page 14
ニュース＆インフォメーション	「大学等における男女共同参画推進セミナー」実施報告　他	Page 16
男女共同参画センターだより	千葉県男女共同参画センター	

▼公式Facebook
男女共同参画局 Facebook
https://www.facebook.com/danjokyodosankaku/

▼公式ホームページ
内閣府男女共同参画局 Gender Equality Bureau Cabinet Office
http://www.gender.go.jp

特集

国際女性会議WAW!（World Assembly for Women：WAW! 2016）
―今年のテーマは「WAW! for Action」。女性の活躍推進に関する国内外の「行動」を国際社会が共に学び合い、今後の「行動」の加速化につなげる―

外務省総合外交政策局女性参画推進室

12月13日オープニング 総理スピーチ

World Assembly for Women（WAW！）とは

WAW!は、国際女性会議WAW!、英語でWorld Assembly for Womenの略称で、「ワウ！」と呼ばれています。日本の女性分野に関する取組を国内外に発信するため、安倍総理大臣のイニシアティブで2014年に第1回目のWAW!が開催されました。WAW!には、世界の様々な地域、国際機関から女性の活躍に関連する分野で活躍するトップ・リーダーが参加し、女性を取り巻く様々な課題について日本及び世界における女性のエンパワーメント、女性の活躍促進のための取組を議論します。

第1回、第2回のWAW!では、経済社会における女性の活躍に関連して、ワークライフ・マネジメントや起業、男性の関与、シングルマザー等のより困難な立場にある人の支援に加えグローバルな課題である平和構築や教育等の分野で女性に関連する課題を取り上げ、革新的な提言が出されました。

日本では、女性の活躍を推進する法律の完全施行、開発協力大綱に基づく「女性の活躍推進のための開発戦略」の発表など、取組を着実に進めています。

今回のテーマは「WAW！for Action」

WAW！ 2016は昨年12月13日及び14日に行われました。テーマは「WAW！ for Action」、女性の活躍推進に関する国内外の「行動」を互いに学び合い、共に行動していこうというメッセージです。2016年が、「女性活躍推進法」の完全施行や、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」の実施元年であるなど、日本・世界にとって、何より「行動」の一年であったことを踏まえ、今次WAW!では、女性の活躍推進に関する国内外の「行動」を共有し、そこから得た教訓を基に、女性の社会進出を阻む固定観念からの脱却や意識及び制度の変革を訴えました。

スペシャル・セッションの様子

12月13日：公開フォーラム

12月13日（火）に行われた公開フォーラムの冒頭で安倍総理は、「行動」を通じて「意識」を変え、あらゆる人が様々な制約を乗り越えて自分らしく活躍できるような社会を目指したい旨述べました。特に、今次WAW!で光を当てたい、「働き方改革」の推進、「女性の意思決定への参加とリーダーシップ」、そして「女性が担う平和で安全な社会づくり」の3つに関し、日本の具体的な取組や国際社会として共に進むべき方向性について発信しました。最後に、G7伊勢志摩サミットで女性アジェンダに力を入れた議長としての情熱は、その役割を終えても変わらないとして、途上国における女性のために、2018年までに総額約30億ドル以上の取組を着実に進める旨約束しました。

インスタグラムCOOであるマーニー・レヴィーン氏による基調講演では、テクノロジーの進化によって、

基調講演を実施する
レヴィーン・インスタグラムCOO

Report

昨年12月13日・14日東京で開催された国際女性会議WAW!（WAW! 2016）について報告します。

女性を取り巻く労働環境を柔軟なものに変えられることが強調され、世界で活躍する女性リーダーの力強いメッセージが発信されました。

続いて「女性が担う平和な社会づくり」「スポーツと女性」の2つのパネル・ディスカッションが実施され、活発な議論が行われるとともに、榊原定征経団連会長、小池百合子東京都知事、プムズィレ・ムランボ＝ヌクカUN Women事務局長からの挨拶、アウン・サン・スー・チー ミャンマー連邦共和国国家最高顧問、澤穂希元サッカー女子日本代表からのビデオメッセージも届けられ、各界を代表する方々の登場とその言葉に、会場が魅了されました。

パネル・ディスカッションの様子

12月14日：ハイレベル・ラウンドテーブル／スペシャル・セッション

14日のハイレベル・ラウンドテーブルは、理系分野における女性の人材育成・活躍推進や女性のリーダーシップの推進、ワークライフ・マネジメント、健康・保健、平和・安全保障における女性の参画といった5つのテーマの下で行われ、活発な議論を通じ、参加者から具体的な提案が出されました。聴衆は、政府関係者、企業関係者、有識者、ジャーナリスト等15名程度で繰り広げられる知見や事例、アイディアの交流に熱心に聞き入りました。フロアからの質問や意見を求めるセッションもあり、会場が一体となり、熱心な議論が行われました。

ハイレベル・ラウンドテーブルの様子

H-1「STEM（科学・技術・工学・数学）分野における女性の人材育成・活躍促進」のテーブルでは、親、教師等のSTEM分野及びキャリアに関するバイアスが女性のキャリア選択に影響していること、女性STEM分野従事者のロールモデルがあまり知られておらず、STEM分野を目指そうとする若い世代の女性が自己のキャリアをイメージしにくいこと、また女性がSTEM分野に進学しない理由と障壁についてのデータの欠如等が課題として議論されました。提言としては、研究職以外でもSTEM知識を生かすことができる幅広いキャリアの可能性について発信することや女性のSTEM分野従事者のビジビリティを高め、学生が女性STEM分野従事者と実際に話して身近に感じることができるテック（技術）キャンプ等の機会を作ること等が挙げられました。

H-2「女性のリーダーシップの推進」のテーブルでは、企業等において女性リーダーを増やす際の障壁として、女性リーダーのロールモデルが少なく、女性リーダーについてバイアス等があることが挙げられ、女性がリーダーとして能力を発揮し活躍できる環境を作るためにどのような方策が必要かについて議論が行われました。

H-3「ワークライフ・マネジメント2.0」では、ワークライフ・マネジメントのための制度や政策等の更なる整備、そして人々の働き方と男女の役割分担についての意識変革を促進する必要性が議論されました。

H-4「女性の健康を考える―特に性と生殖に関する健康と権利の向上に関連して」では、性と生殖に関する健康と権利の問題は、様々な分野と密接に関係しており、法律、教育カリキュラム等、様々な側面からの包括的な取組が必要であり、特に男性・男児を含む個々人の意識を変える社会規範を変革していくこと等が提言されました。

H-5「平和・安全保障における女性の参画とエンパワーメント」では、平和・安全保障における女性の参画推進やジェンダーに基づく暴力根絶のための課題等が議論されました。

また、主要なリーダーや防衛学校の学生、関連行政官に女性・平和・

国際女性会議WAW!（World Assembly for Women：WAW! 2016）
―今年のテーマは「WAW! for Action」。女性の活躍推進に関する国内外の「行動」を国際社会が共に学び合い、今後の「行動」の加速化につなげる―

スペシャル・セッションの様子

安全保障に関する教育やジェンダー研修を行うこと等が提言として挙げられました。

これらに加え、本年は2つのスペシャル・セッションが実施されました。昨年に引き続き設置されたユース・テーブルでは「若者が作りたいジェンダー平等社会とは―現状と課題―」をテーマとして、国内で活躍する若者が課題を共有し、男性も当事者意識を持って女性と共に貢献していくことや、若者の声を恒常的に政策へ反映する仕組みを作ること、女性に差別的な法律を撤廃していくこと等の提言がなされました。

「地方からのイノベーション：女性が「真」に輝く社会とは？」をテーマとしたスペシャル・セッションでは、家父長制や性別役割分業といった固定観念や、意思決定の場に女性が少ないことが、女性の活躍における障壁となっていることが指摘されました。女性が地方で真に輝ける状況を作るためには、女性自身も周囲の目を気にしすぎずにチャレンジすること、技術や知識を身につけて同じ立場の人と連帯していくこと、外からの知識や情報を活用して変化を起こしていくこと等が挙げられました。

クロージング・セッションでは、各セッションのラポラトゥールから具体的提案を含む報告がなされ、本年の成果文書となるWAW！ To Do 2016を策定することとなりました。

ムーブメントとしてのWAW！
対外発信の強化

トレインチャンネルの放映の様子

今回のWAW！はこれまでにも増して事前広報に取り組みました。JR線の一部では、WAW！開催直前にトレインチャンネル（電車内の動画広告URL：https://www.facebook.com/shineweeks/videos/653892781457812/ QRコードからもご覧いただけます）を通じた広報を実施した他、WAW！のFacebookページやTwitterといったソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の活用を積極的に展開しました。SNSを使用することで、これまでWAW！の存在を知らなかった一般の方やWAW！に参加できない国内外の方にも情報が行き渡り、WAW！当日前後には参加者同士による活発なやり取りが見られるなど、大きな反応が得られました。また、14日午前中のスペシャル・セッション（ユース・テーブル）をYouTubeでライブ配信するなど、初の試みも行いました。

事前広報動画

著名人から「女性が輝く社会に向けたアイディア」を集めた事前広報用動画は、Facebookページ上での

フォトブースの様子

再生回数が5.5万回を超え、67.7万人の目に触れるなど、WAW!の存在をより多くの一般の方々に知っていただくことができました（URL：https://www.facebook.com/shineweeks/videos/656201721226918/ QRコードからもご覧いただけます）。

WAW!当日には、WAW!ムーブメントを共有するツールとして、前年に引き続きフォトブースを設置し、多くの参加者、聴衆が撮影に参加しました。

今回のWAW!も、アドバイザーや協力団体等多くの方の協力を得て、「女性が輝く社会」のメッセージを世界に発信することができました。

WAW！ 2016 ポスター

外務省総合外交政策局女性参画推進室からのお知らせ

この度、当室が2015年3月に作成した「女性が輝く世界をつくる」（初版）を改訂し、第2版として発行しました。今回より、電子パンフレットでも閲覧いただけますので、外務省ホームページをご覧下さい。

パンフレットの入手をご希望の方は、総合外交政策局女性参画推進室（外務省代表　03-3580-3311）までお申し込み下さい。部数には限りがございますので予め御了承下さい。

女性が輝く世界をつくる（第2版）

TOPICS Part 1

平成28年度「女性が輝く先進企業表彰」

内閣府男女共同参画局総務課

女性が輝く先進企業2016

平成28年12月13日、総理大臣官邸において、安倍内閣総理大臣、加藤内閣府特命担当大臣（男女共同参画）出席のもと、「女性が輝く先進企業表彰」表彰式を行いました。

この表彰は、女性が活躍できる職場環境の整備を推進するため、役員・管理職への女性の登用に関する方針、取組及び実績並びにそれらの情報開示において顕著な功績があった企業を表彰するものです。第3回目となる本年度は、内閣総理大臣表彰として2社、内閣府特命担当大臣（男女共同参画）表彰として5社が表彰されました。

安倍総理は表彰式冒頭の挨拶の中で、「受賞企業は、女性の活躍推進と情報開示にいち早く取り組まれている、正に女性が輝く社会づくりのトップランナーです。推薦される企業は初年度の2倍に増え、受賞企業には様々な効果が現れ始めていると伺っています。本日の表彰を契機として、多くの企業が後に続き、女性が輝く社会に向かう動きがさらに加速することを期待しています。」と述べられました。

表彰式の後は、加藤大臣と受賞企業の代表者との懇談会を開催しました。各社から工夫を凝らした取組を紹介いただくとともに、「女性活躍を推進するには、経営者のコミットメントが重要」、「本社主導ではなく、各職場における自主的な取組も促している」「女性のみならず、全従業員が活躍するための鍵は時間。自分で時間をコントロールできる仕組みづくりが欠かせない」といった、様々な意見が出ました。

最後に加藤大臣から「女性活躍を一層推進するためには、先進的な取組をいかに広げるかが鍵。今後とも働き方改革を含め、より多くの女性が真に活躍できる社会となるよう一層取り組んでいきたい」との力強いメッセージをいただき、懇談会は終了しました。

▶受賞企業代表者による記念撮影。
前列左より㈱ユーシステム佐伯代表取締役、カルビー㈱松本会長、安倍総理、加藤大臣、損害保険ジャパン日本興亜㈱西澤社長、後列左より、（福）あいの土山福祉会廣岡理事、大和証券㈱鈴木会長、㈱北洋銀行石井頭取、明治安田生命保険（相）根岸社長

【受賞企業の紹介】

〔内閣総理大臣表彰〕

○カルビー株式会社（東京都）

平成26年度に内閣府特命担当大臣表彰を受賞。その後も、女性役員数は2人から3人、女性管理職比率は14.3％から22.1％に増加する等、継続して女性活躍推進に取り組んでいます。

○損害保険ジャパン日本興亜株式会社（東京都）

全従業員を対象としたテレワークや柔軟なシフト勤務等、あらゆる方法を駆使して働き方改革を実施。全国各地で地方自治体や地元企業と連携し、自社はもとより、地域の女性活躍にも取り組んでいます。

〔内閣府特命担当大臣表彰〕

○社会福祉法人あいの土山福祉会（滋賀県）

人材確保が困難な介護業界において、「トリプルゼロ（腰痛・メンタル不調・残業の撲滅）」を目指して、労働環境の改善を進め蓄積したノウハウを積極的に公開しています。

○大和証券株式会社（東京都）

平成21年に生え抜きの女性役員4人を登用。男性中心とされていた部署へ女性を積極的に配置する、早期退社を励行し、スキル向上に向けた研修の受講を促す等、育成にも力を入れています。

○株式会社北洋銀行（北海道）

平成12年に「女性行員活用策」を策定し、計画的に管理職を登用し、平成21年には「女性活躍支援室」を設置する等、早い段階から女性活躍推進に取り組んでいます。

○明治安田生命保険相互会社（東京都）

各所属におけるワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組状況を得点化し評価する「ワーク・ライフ・デザインプログラム」を導入し、所属長評価に反映させています。

○株式会社ユーシステム（兵庫県）

IT技術を活用し、業務改善に向けた成果目標・行動目標を数値化してアクションプランを実行する、プロジェクトをクラウド上で管理する等、長時間労働の解消に取り組んでいます。

受賞企業の取組は下記ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

内閣府男女共同参画局HP

「女性が輝く先進企業表彰」

▶http://www.gender.go.jp/policy/mieruka/company/hyosyo27.html

【懇談会の様子】

▶懇談会で挨拶される加藤大臣

TOPICS Part 2

「農業における女性・若者の活躍推進に向けたG7国際フォーラム」が開催されました

農林水産省経営局就農・女性課 女性活躍推進室

■ 農林水産省は、平成28年12月12日（月）に、東京都港区の三田共用会議所において、「農業における女性・若者の活躍推進に向けたG7国際フォーラム」を開催しました。

■ このフォーラムは、平成28年4月に開催されたG7新潟農業大臣会合の成果文書として採択された「新潟宣言」において世界の食料安全保障の強化に向けた具体的な取組の一つとして「女性・若者の農業及びフードシステムにおける活躍推進のための施策に関する課題や成功事例を共有する国際フォーラムを開催する」ことが示されたことにもとづき、G7の取組として世界で初めて開催されたものです。

■ 午前の施策担当者会議においては、G7実務担当者間で、各国の農業就業人口に占める女性の割合、農業経営体における女性経営者の割合等の基礎的情報や、農業分野で女性・若者が置かれている現状、農業に女性が参画する意義、女性・若者の活躍に向けた施策・制度に関する情報等を共有し、出席者全体で今後の施策立案における課題等について議論しました。

また、本会合の内容を、G7メンバーのみならず、途上国を含めた多くの国における施策の展開に活かしていくため、会合の資料をインターネット上に掲載し、共有を図ることで合意しました。

【基調講演】

◇ランダル・ジョーンズ　経済協力開発機構（OECD）経済局シニアエコノミスト

◇クララ・パク　国際連合食糧農業機関（FAO）アジア・太平洋地域事務所ジェンダー担当官

【G7メンバーによるプレゼンテーション】

◇佐藤　一絵　農林水産省経営局就農・女性課長

◇須田　敦　外務省経済局経済安全保障課首席事務官

フォーラム出席者によるフォトセッション

G7実務担当者会議の模様

OECD　ジョーンズ氏の基調講演

FAO　パク氏の基調講演

挨拶する齋藤健　農林水産副大臣

パネルディスカッションの模様

日・米・仏のパネリスト

コメントする安倍昭恵内閣総理大臣夫人

農業女子プロジェクトで開発された商品の説明

◇クリス・アンダーソン　駐日カナダ大使館一等書記官
◇サビーヌ・オフェレール　駐日フランス大使館農務参事官
◇ミヒャエル・ケスラー　駐日ドイツ大使館参事官
◇トンマーゾ・デルコレ　駐日イタリア大使館二等書記官
◇ロズ・カンピオン　駐日英国大使館公使参事官
◇アリソン・トーマス　米国農務省海外農務局副局長代理
◇メルヴィ・カーロス　駐日EU代表部参事官

【その他の国の参加者】
◇エライネ・ハンフレイス　駐日ブラジル大使館参事官
◇ヌリ・ディセニ　駐日チリ大使館農務参事官
◇チョンティサック・チャーオパークナーム　駐日タイ王国大使館公使参事官
◇サミュエル・アニマス　駐日フィリピン大使館農務官
◇ケレンベ・シテンベレ　駐日南アフリカ共和国大使館参事官
◇ファン・ティ・トゥイ・ゴック　駐日ベトナム大使館二等書記官

（敬称略）

■　午後のパネルディスカッションでは、齋藤健農林水産副大臣出席のもと、安倍昭恵内閣総理大臣夫人をコメンテーターにお迎えし、日本、アメリカ、フランスの女性農業経営者4名が、就農までの経緯、農業経営の現状、経営における女性の役割や将来ビジョンについてプレゼンテーションした後、農業分野で女性が活躍することの意義、女性の強みをどのように経営に活かしていくか等について、会場からの質問や昭恵夫人からのコメントも交えながら、活発な意見交換が行われました。

■　また、農業女子プロジェクト(注)で開発したトラクタ、草刈り機等の商品や、全国農業青年クラブ（4Hクラブ）の活動状況について会場内で展示を行い、来場者にその内容について説明を行いました。

【パネリスト】
◇高橋　久美子 氏（神奈川県：野菜農家、農業女子プロジェクトメンバー）
◇前田　佳良子 氏（熊本県：養豚経営、セブンフーズ株式会社代表取締役）
◇カレン・セレス 氏（フランス：羊農家、女性農家委員会地域・郡会長、全仏農業経営者連盟　女性農業者委員会会長兼理事）
◇フランシーヌ・ローズ・ハーチャー氏（アメリカ：酪農、トウモロコシ、大豆等の生産者）

【主催者挨拶】
◇齋藤　健　農林水産副大臣

【コメンテーター】
◇安倍　昭恵　内閣総理大臣夫人

【司会】
◇佐藤　一絵　農林水産省経営局就農・女性課長

（注）　農業女子プロジェクト
女性農業者が日々の生活や仕事の中で培った知恵を様々な企業の技術・ノウハウと結び付け、新たな商品やサービスを創造し、農業で活躍する女性の姿を広く社会に発信するプロジェクト。平成29年1月現在、企業28社、教育機関2校、農業女子メンバー544名が参加している。
【農業女子プロジェクト公式HP】
https://nougyoujoshi.maff.go.jp/

TOPICS Part 3

東アジア家族・男女担当大臣フォーラムについて

内閣府男女共同参画局総務課

平成28年12月21日（水）～23日（金）、タイ・バンコクにおいて、「東アジア家族・男女担当大臣フォーラム」の第1回会合が開催されました。本会合は、我が国の主導により設立された東アジア男女共同参画担当大臣会合と、東アジア家族に関する大臣フォーラムが統合されて初めての会合であり、「家族に優しい社会：家族と男女共同参画を通じたSDGs達成への貢献」をテーマに、政策・方針決定過程への女性の参画や女性に対する暴力等について議論が行われました。

今回、我が国からは、加藤勝信女性活躍・男女共同参画担当大臣が出席しました。また、会合の合意文書として「バンコク宣言」が採択されました。

参加国

東アジア16か国（オーストラリア、ブルネイ、カンボジア、中国、インドネシア、日本、韓国、ラオス、マレーシア、ミャンマー、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、タイ、東チモール、ベトナム）が参加しました。

我が国からの発表

我が国からは、安倍政権の成長戦略の中核である「女性の活躍」を推進するための積極的な取組やその成果について報告したほか、「働き方改革」、「女性に対する暴力」に対する取組について紹介しました。また、国際社会との連携として、G7伊勢志摩サミットにおける成果や「女性の活躍推進のための開発戦略」についても紹介しました。

バンコク宣言

会合の最後に、バンコク宣言が採択されました。主な内容は以下のとおりです。

- 家族開発政策にジェンダーの視点を取り入れること。
- ジェンダー平等に向けて困難を乗り越える力を持つ家族を支援し、女性に対する複合的差別等に対処する政策と制度を策定及び開発すること。
- 女性、子供等に対する複合的暴力等を根絶するための方法を構築及び強化すること。
- 人生のあらゆる段階及び場所において女性の十分かつ有意義な参加を促すために必要な措置をとること。
- 女性の能力強化を通じ、潜在性を開花させリーダーシップを強化すること。

等

会場の様子

各国代表による集合写真

TOPICS Part 4

平成28年度　パートタイム労働者活躍推進企業表彰の受賞企業と事例集について

厚生労働省 雇用均等・児童家庭局
短時間・在宅労働課

厚生労働省では、「パートタイム労働者活躍推進企業表彰」を実施しており、今般平成28年度パートタイム労働者活躍推進企業表彰受賞企業を決定しました。

1　受賞企業について

平成28年度の最優良賞（厚生労働大臣賞）、優良賞（雇用均等・児童家庭局長優良賞）、奨励賞（雇用均等・児童家庭局長奨励賞）受賞企業は次のとおりです。

最優良賞	株式会社オリエンタルランド（千葉県／生活関連サービス業・娯楽業）
	株式会社ケア２１（大阪府／医療・福祉）
優良賞	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社（東京都／金融業・保険業）
	株式会社AOKI（神奈川県／小売業）
	株式会社千葉興業銀行（千葉県／金融業・保険業）
	株式会社東邦銀行（福島県／金融業・保険業）
奨励賞	イオン九州株式会社（福岡県／小売業）
	株式会社イオンファンタジー（千葉県／生活関連サービス業・娯楽業）
	株式会社オーティーエス（東京都／運輸業・郵便業）
	株式会社関西スーパーマーケット（兵庫県／小売業）
	株式会社サンリッチ三島（静岡県／医療・福祉）
	株式会社日豊ケアサービス（大分県／医療・福祉）

表彰式典「パートタイム労働者が活躍できる職場づくりシンポジウム」にて、表彰式を執り行いました（1月25日開催）。

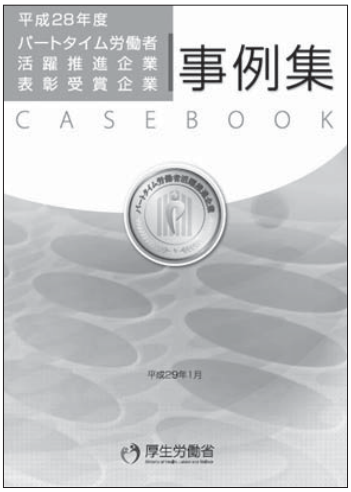
2　受賞企業事例集について

受賞企業の取組には、パートタイム労働者に正社員と共通の人事評価制度や昇給・賞与基準を適用し正社員との均等・均衡待遇をはかっているものや、計画的・体系的な教育プログラムにより、パートタイム労働者のキャリアアップを支援し待遇の改善を実現しているものなどがありました。受賞企業の詳しい取組内容や取組にあたって工夫した点、苦労した点、取組の成果などを取りまとめた事例集を作成しています。

※事例集はホームページからダウンロードすることができ、ご希望の場合は冊子もご提供しています。詳しくは「パートタイム労働者活躍推進企業表彰サイト」をご覧下さい。

URL：
https://part-tanjikan.mhlw.go.jp/award/

【平成28年度パートタイム労働者活躍推進企業表彰受賞企業事例集】



TOPICS Part 5

「男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会（第2回、第3回）」の開催

内閣府男女共同参画局総務課

男女共同参画会議の下に設置された「男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会」の第2回、第3回会合の様子をお知らせします。

【第2回会合】

11月14日（月）に開催された第2回会合では、乳児用液体ミルクに係る関係者ヒアリングが行われました。乳児用液体ミルクの普及を希望する市民団体の代表として乳児用液体ミルクプロジェクト代表理事の末永恵理氏から乳児用液体ミルクの概要と有用性をお話いただきました。

続いて、厚生労働省から食品安全に関する食品衛生法上の制度と取組について、消費者庁から乳児用等特別の用途に適する旨の表示に関する基準設定について解説していただき、事業者団体の（一社）日本乳業協会から乳児用液体ミルク普及に向けてのこれまでの経緯と現在の取組状況を述べていただきました。

続いて、3名の委員からプレゼンテーションが行われました。

始めに川島委員から、男性の家事・育児参画を推進するための、長時間労働の是正や男性への啓発などについて発表されました。

塚本委員からは、「福井県の地域特性と女性の就労ならびに両性間の家事分担の現状と課題」について発表されました。

鍋山委員からは、地方都市・中小企業・介護の視点で、ワーク・ライフ・バランスの課題等について発表されました。

【第3回会合】

12月9日（金）に開催された第3回会合では、厚生労働省から育児休業の取得状況と諸制度等について、内閣人事局から国家公務員の育休取得促進等について、内閣府子ども・子育て本部から「さんきゅうパパプロジェクト」の取組等について、文部科学省から男女共同参画社会の実現の加速に向けた学習機会の充実や社会教育等について、農林水産省から食育推進基本計画や男性に対する食育推進事例等について、それぞれヒアリングが行われました。

続いて、4名の委員からプレゼンテーションが行われました。

始めに伊藤委員から、経済同友会が発表した提言「新産業革命による労働市場のパラダイムシフトへの対応」について発表されました。

古平委員からは、気運の醸成について、山本委員からは、テクノロジーの活用について発表されました。

白河委員からは、スリール株式会社による「育ボスブートキャンプ」について説明をいただきました。

この専門調査会の開催状況、資料、議事録等は下記URLを御参照ください。
http://www.gender.go.jp/kaigi/senmon/kurashikata_ishikihenkaku/list.html

第2回専門調査会（11月14日）の様子

女性の経済的エンパワメント・各国の取組⑩ 「好きの搾取」と賃金

立命館大学法学部 教授 大西 祥世

おいしいチョコレートが街中で売り出される季節になりました。近年は、女性も男性もがんばった自分へのご褒美としていろいろな種類を購入するようです。私の住まいの近くにはあちこちに和菓子屋がありますが、すてきなチョコレート専門店も多いので、予算を決めて毎年楽しんでいます。

職業は、人々にとって、生計の維持だけではなく、個性を発揮し、社会で役割を果たすという自己実現のために重要です。男女が心身ともに健康で豊かな生活をするためには、職務や働いた時間分の正当な賃金を得ることが不可欠です。女性の活躍促進には、女性の賃金アップと男女の賃金格差の解消がともなうことがカギとなります。「女性に、自由に好きなチョコを買える賃金と権限を」とアピールしたら「いいね！」となるでしょうか。ダイエットが気になるでしょうか。

世界中の多くの企業はすでに自主的に、社員の男女の賃金を平等にするよう取り組んでいます。イギリスは2010年に「同一賃金法」を定め、男女の賃金格差をなくすために政府と企業がタッグを組んでいます。ただし、なかなか縮まらないので、2016年12月に、業種別に男女の賃金格差が一覧できるウェブサイトを立ち上げました[1]。最も差別的な業種は格差が45.4％（男性の賃金水準を100とした場合、女性は54.6となる）の建設監督者であることが一目瞭然になりました。

さらに、同法に新たに「男女賃金格差情報公開規則」が制定されて、2017年4月から、約8000社に対し、次の4つの男女別データを公表して「見える化」するよう義務づけます。

具体的には、①賃金の中央値、②賃金の平均値です。社内における低い賃金層と高い賃金層に男女の社員がどのくらい分布しているのかを明らかにします。③賃金構造における男女の分布です。女性の活躍が進んでいない領域を明らかにします。④ボーナスの賃金格差です。

イギリスの賃金格差は、1997年の27.5％から2016年には18.1％[2]と圧縮し、かなり改善されました。実際に、1999年と2016年の年間収入額を比較すると、男性の1.54倍に比べて、女性は1.7倍に伸びました[3]。しかし、同国は、依然として賃金格差が大きな要因は、女性が家庭責任をより多く担うために有償労働の時間が短くなり、かつ、その能力が発揮されず、昇進せず、仕事で十分に活躍できないからであると分析しています。

賃金格差がなくなって女性が活躍した分が賃金に反映されれば、2025年までに、GDPが1500億ポンド（約210兆円）、女性の雇用が84万人増えるという試算から、国の経済成長戦略としても企業のビジネスチャンスとしても、最も重要な課題と位置づけられました。日本における賃金格差は27.8％[4]ですので、本格的に取り組めば、より大きな効果が期待できます。

2016年秋に大ヒットしたドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」では、恋愛や働き方のさまざまなかたちが描かれていました。家事を代行業者が行えば有償になり、妻が行えば無償になるのは「好きの搾取」だといわれました。

日本では長時間労働やサービス残業も深刻です。社員の「仕事好き」や「会社好き」を搾取するビジネスのあり方は持続しません。2017年は大きな変化と、仕事でも家庭でも「好き」が正しく報われる年になることを期待します。

1 https://www.gov.uk/government/news/new-website-reveals-gender-pay-gap-by-profession
2 http://visual.ons.gov.uk/the-gender-pay-gap-what-is-it-and-what-affects-it/
3 Office for National Statistics, Annual Survey of Hours and Earnings: 2016 provisional results.
4 内閣府『男女共同参画白書 平成28年版』（2016年）。

おおにし・さちよ／立命館大学法学部教授。博士（法学）。専門：憲法、ジェンダーと法・政策、議会法。国連「女性のエンパワメント原則」リーダーシップグループメンバーとして活動。主著：『女性と憲法の構造』（信山社、2006年）、「国連・企業・政府の協働による国際人権保障」国際人権27号（2016年）、「『政治的，経済的又は社会的関係において，差別されない』の保障」立命館法学355号（2015年）等。

Onishi Sachiyo

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者の取組

一昨年「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言が公表され、現在130名を超える男性リーダーが本宣言に賛同しています。今月は4名の賛同者の取組を紹介します。

ダイバーシティ推進で、創造と革新を生み出す組織風土を醸成する

IHIがダイバーシティ推進に取り組む目的は、多様な個性・価値観を有する一人ひとりが持てる能力を最大限に発揮できる職場をつくることで、多様な考え方を結びつけ、創造と革新を生み出す組織風土を醸成することにあります。

とりわけ、優秀な女性の積極的な採用・能力開発と入社後に活躍できる環境の整備は、IHIグループが持続的に成長していくために重要な課題です。そのため、当社では2013年度より、女性の活躍に関する各種の数値目標を設定し、諸施策に取り組んでいます。2016年6月には、2020年度までに女性管理職比率を3.5％（2013年度比で2倍超）とする新たな数値目標を設定しました。

目標達成には、女性従業員自身のキャリア意識の向上と、男性従業員の意識改革が重要であると考えています。このため、若手女性管理職がリーダーとなり、女性従業員のネットワークづくりや動機付けを行う「ネットワークリーダー活動」や、女性管理職とその上司を対象とした講演会を実施しています。また、人事部による女性管理職や管理職候補者の上司への面談を通じて、上司自身の女性活躍推進に対する意識向上を図るとともに、上司から女性部下へのキャリアアップの動機づけを促しています。さらに、2015年度から取組を始めた「ダイバーシティ推進月間」において、2016年度は男性従業員に育休取得を勧めるリーフレットの配布などを行いました。

今後とも、IHIグループ従業員一人ひとりの価値観の多様性をつなぎ、イノベーションを巻き起こせるよう、ダイバーシティを推進していきたいと思います。

斎藤 保
株式会社IHI
代表取締役会長(兼)最高経営責任者

本社でのネットワークリーダー活動の様子

男性従業員に育休取得を勧めるリーフレット

お客様やステークホルダーに選ばれる良い会社“Good Company”を目指して

東京海上グループは、多様な価値観を持ち、意欲と能力のある社員が性別、年齢、国籍等に関わらず能力を最大限発揮していくことで、世界中のお客様に提供する商品、サービスの品質を高めていくことを目指しています。そのために、女性社員が自律的にキャリアを構築し、より広いフィールドで活躍できるよう、さまざまな機会やチャレンジの場を提供しています。

例えば、国内グループ各社合同で、職種や働く環境が異なる女性社員を対象に、「女性の活躍推進研修」を開催しています。参加者が多様な価値観や考え方に触れることで、自らのキャリアについて考え、気付きを得る場となっています。また、グループの中核となる東京海上日動では、「期待して」「鍛えて」「活躍する機会と場を提供する」という「3つのK」を育てる側の基本姿勢とし、個々人のキャリアビジョンをふまえた役割の付与と年間を通じたOJT、部門を越えた人事異動や選抜制研修の実施等、本人の意欲と能力に応じて更なる活躍が可能な環境を整えています。

今後も取組を加速し、会社や組織のあらゆる意思決定の場に、女性が当たり前に参画している状態を目指していきます。人材の多様性を生かすことを経営戦略の根幹に据え、すべてのステークホルダーから信頼される良い会社“Good Company”を目指し、これからもグループ一丸となって挑戦を続けていきます。

永野 毅
東京海上ホールディングス株式会社
取締役社長　グループCEO

東京海上グループ合同「女性の活躍推進研修」の様子

仕事と育児を両立し活躍する女性営業社員

新浪 剛史
サントリーホールディングス株式会社
代表取締役社長

リーダークラスの女性たちに講演する女性マネジャー

「エイジョカレッジ」の様子

女性自ら変革の“核”となり、全社のダイバーシティ推進を牽引

サントリーホールディングスでは、多様な価値観や発想を受け入れ、活かすことにより、大きな価値を創出する「ダイバーシティ経営の推進」を経営方針に掲げています。女性活躍の領域では、“女性が働きやすく、かつ成果をあげている会社”を実現するため、「2025年までに女性管理職比率20%」という数値目標を設け、育児中社員のフルモード化支援や、女性の意識向上など様々な取組を加速させています。

女性自身から「自分が活躍することで、後進のロールモデルとなっていきたい」などと前向きな声も聞こえるようになり、考動変化が現れ始めています。女性自らが変革の“核”となり、全社を牽引してもらうような流れを継続していきたいと考えています。

女性マネジャー有志で結成される「女性マネジャー・ネットワーキング幹事会」では、自らの自己研鑽・ネットワーク強化を図り、女性の更なる活躍やサントリーグループの成長に貢献する活動を主体的に企画・運営しています。

また、更なる後押しが必要な営業部門では、同じ課題意識をもつ異業種他社と連携し、「新世代エイジョカレッジ」という異業種合同プロジェクトを実施しています。2016年は「労働生産性向上」をテーマに、エイジョ（営業女性）自らが経営層に課題解決に向けた提言を行いました。

多様な従業員一人ひとりが、創業精神である“やってみなはれ”を発揮し、イキイキと活躍できる組織づくりを目指して、今後もダイバーシティを推進していきます。

韓 裕
株式会社マルハン
代表取締役社長

社内での認知を高めるために親しみやすいロゴを作成

「女性役職者創出研修」の様子

ダイバーシティで、ヨロコビを

マルハンでは、ダイバーシティ推進・女性活躍推進を経営課題として捉え、2015年7月より全社共通方針として「ダイバーシティで、ヨロコビを」を社内外に発信し、①女性活躍推進、②働く環境の整備、③ダイバーシティの全社浸透、という3つの指針を中心に取組を推進しています。それは、多様な社会（ニーズ）へ対応し、縮小傾向にある業界において新たなイノベーションを創造していくためです。

まず、女性活躍推進は「2020年女性役職者比率5%」という目標数値を明確に示し、各種制度の整備のみならず、女性の主体性を引き出す「女性役職者創出研修」の実施や、女性自らが中心となり活躍出来るチームの組成等を行っております。取組を実施するに当たり、幹部全員を対象とした5時間以上にも及ぶ「ダイバーシティ推進上司力UP研修」を実施し、幹部自身がダイバーシティの必要性を考える機会を設けることが出来たことも、推進に寄与していると感じています。

働く環境の整備に関しては、2016年より「働き方改革」をメインテーマとして掲げています。自らの働き方に疑問を持ち、それぞれが協力し合い相乗効果を発揮できるチームとしての働き方を生み出すために、ダイバーシティフォーラムの開催、働き方改革推進プログラムの開発、ならび全国展開に向けたトライアルチームの運用等を行っています。

今後も、経営理念である「人生にヨロコビを」に添い、幸せで希望に満ちた明るく楽しい社会づくりに貢献できるよう、ダイバーシティ推進・女性活躍推進に取り組みます。

[News & Information]

1 News 国立女性教育会館（NWEC／ヌエック）

「大学等における男女共同参画推進セミナー」実施報告

11月29日～30日、「大学等における男女共同参画推進セミナー」を実施し、全国から80名を超える男女共同参画に携わる高等教育機関の教職員の参加がありました。

本研修は、大学・短期大学・高等専門学校の高等教育機関においても、男女共同参画社会の実現を力強く推進するために、「経営戦略としてのダイバーシティ＆インクルージョン」をテーマに実施しました。

1日目の基調鼎談では、3名の有識者から、学内の女性の活躍や働き方の改革が喫緊の課題であることや、男女共同参画推進を経営戦略の柱にすることなど、力強いメッセージが発信されました。続く、パネルディスカッションでは、「女性も活躍できる職場風土を考える」をテーマに、管理職あるいはその候補者である女性職員4名が登壇し、現状と課題について報告しました。

2日目は大学等における男女共同参画の主要な課題等についてグループ討議を進めることにより、参加者同士のコミュニケーションを深め、ネットワークづくりを行いました。

詳しくは、ホームページをご覧ください。
https://www.nwec.jp/event/training/2016page07.html

2 News 国立女性教育会館（NWEC／ヌエック）

「アーカイブ保存修復研修」実施報告

11月30日～12月2日に女性アーカイブの保存修復研修を実施し、基礎コースは29名、実技コースは25名の参加がありました。

本研修は、女性に関わる原資料（女性アーカイブ）の適切な保存・活用に必要となる基本的な知識を身につけることを目的としたもので、資料の保存・提供に携わる実務者を対象に、アーカイブ関連業務のスペシャリストや実務担当者を外部講師として招き、実施しています。

「基礎コース」では、アーカイブ概論や、複数の施設によるアーカイブ公開の事例報告、さらに講師を囲んでグループごとのディスカッションを行いました。

「実技コース」では、2日間にわたって、古い紙資料の修復方法に関する実習を行いました。

詳しくは、ホームページをご覧ください。
https://www.nwec.jp/event/training/archivist2016.html

3 News 国立女性教育会館（NWEC／ヌエック）

「NWECグローバルセミナー」開催報告

12月2日に「女性の活躍促進にむけた取組み－ヨーロッパの経験から考える」をテーマとして開催し、100名を超える参加がありました。

デンマーク王国子供･教育･男女共同参画省のキーラ・アペル氏が「デンマークにおけるジェンダー平等－長く価値のある道のり」と題した基調講演を行い、同国の女性の地位向上の歴史的変遷を踏まえ、北欧諸国で機会均等を確保するために必要な政策的原動力について報告しました。

後半のパネルディスカッションでは、NPO法人ジェンダー・アクション・プラットフォームの大崎麻子氏をコーディネーターに迎え、「女性の活躍促進に向けた取組み－EUと日本の課題」をテーマに論議が行われました。ポーランドで男女共同参画政策の立案に従事してきたモニカ・チェニウィックス氏は、ローマ条約等を経てEU諸国でジェンダー主流化が達成されてきた経緯を紹介し、労働政策研究・研修機構の池田心豪氏は、仕事と家庭の両立について、男性の働き方変革の視点から日本の概況を詳細なデータを駆使して報告しました。

詳しくは、ホームページをご覧ください。
https://www.nwec.jp/global/seminar/copy_of_2015page15.html

4 Info 農林水産省

農業女子PJアワード2016の開催について

農林水産省が推進する農業女子PJの今年度のイベントの1つとして、「農業女子PJアワード2016」を開催いたします。

全国で活躍する農業女子メンバーを対象に、農業女子として日々仕事で工夫していること、地域での取り組みや将来の夢など、農業にかける思いを募集。アワード当日には、事前審査を通過したファイナリストによるプレゼンテーションが行われ、最優秀者を決定します。下記、ホームページより一般参観の募集をしていますので是非応募下さい。

『農業女子PJアワード2016』
日　時：平成29年3月9日（木）
　　13：30開場　14：00～16：00
場　所：丸ビルホール
　　（東京都千代田区丸の内2－4－1丸ビル7階）
定　員：300名（先着順）
参加費：無料
【農業女子PJアワード　特設ページ】
https://nougyoujoshi.maff.go.jp/award/2016/

男女共同参画センターだより

News From Center

千葉県男女共同参画センター

千葉県総合企画部

千葉県男女共同参画センターは、千葉市稲毛区にある千葉県青少年女性会館内にあり、男女共同参画の推進拠点として、様々な取り組みを行っています。

広報・啓発の活動としては、男女共同参画の推進に主体的に取り組む民間団体、県民の交流・学習の場となるよう、センターフェスティバルを毎年8月の第1日曜日に開催し、今年で11回目となりました。

フェスティバルの様子

その他、内閣府の男女共同参画週間関連行事である、男女共同参画シンポジウム、企業や地域で活躍する女性人材を養成することを目的とした女性リーダー養成講座～私のステップアップ塾～、大学や地域・産業団体等と連携した専門性・先進性の高いセミナー等を開催しています。

情報コーナー

また、県民にセンターの事業や男女共同参画の理解を深めてもらうため、センター事業の概要や、男女共同参画についての情報を提供する情報誌を年2回発行するとともに、男女共同参画に関する図書等を収集・整理し、情報コーナー（蔵書約7000冊）において貸出しを行っています。

さらに、県内6地域ごとに「男女共同参画地域推進員」を知事が委嘱し、市町村とともに地域の特性に合わせた事業を企画して、男女共同参画の普及・啓発の活動も行っています。

この他、配偶者暴力相談支援センターとして、女性や男性が抱える様々な悩みや問題に対し、電話相談、カウンセリング等を実施するとともに、相談業務に従事する県内行政機関の相談員の資質向上を図るため、相談業務支援スーパービジョンを実施しています。

当センターは、男女が互いに尊重し合い、協力しながら元気な千葉県を築いていくため、社会情勢に対応した様々な事業を今後も行ってまいります。

Editor's Note

編集後記

男女共同参画週間キャッチフレーズ募集は2月末日が期限となります。引き続き皆様の応募をお待ちしております。

今年の初詣のおみくじで「凶」をひいてしまいました。「病いは重い」と書かれており、そうしたら年始早々におたふくかぜに罹って寝込んでしまいました…やはりおみくじは当たるのかと思いましたが、後ろ向きな考え方はせずに気持ちを切り替えていこうと思います。

（編集デスク　U.M）

【お詫び】

1月号の共同参画情報部News&Informationにおいて、国立女性教育会館（NWEC）の記事中に記載のURLに誤りがありました。お詫びいたします。

【2月号表紙】

様々な課題に女性・男性が共に考え、積極的に議論を行い、社会を変革していきましょう。

デザイン／鈴木明子

Kyodo-Sankaku

月刊総合情報誌
「共同参画」2月号
http://www.gender.go.jp
https://www.facebook.com/danjokyodosankaku/
第98号●2017年2月10日発行
編集・発行●内閣府
〒100-8914
東京都千代田区永田町1-6-1
内閣府男女共同参画局総務課
電話●03-5253-2111（代）
印刷●日昇印刷株式会社

農山漁村女性の活躍を支援します

農山漁村においては、女性の役割の重要性がますます高まってますが、農林水産業経営における女性の参画状況はいまだ十分ではありません。また、女性が働きやすい作業環境の整備や就業支援、育児・介護等に関わる男女の負担の軽減などのワーク・ライフ・バランスや、固定的な性別役割分担意識とこうした意識に基づく行動の変革に向けた取組が必要です。

このため、農業委員会の委員、農業協同組合等の役員等への女性登用の一層の拡大を始めとした農山漁村における女性の政策・方針決定過程への参画拡大を促進するとともに、女性の経営上の位置づけの明確化や経済的地位の向上のために家族経営協定の締結など必要な取り組みを推進します。

◆女性・シニア活動表彰 農山漁村男女共同参画優良活動表彰

3/7

日時：2017年3月7日（火）13:00～　場所：東京大学安田講堂
主催：農山漁村男女共同参画推進協議会
特別協賛：公益財団法人イオンワンパーセントクラブ　後援：農林水産省等
申込みなど詳細はURL・QRコードにて：https://www.nca.or.jp/support/farmers/common/

共同開催

◆大地の力コンペ表彰

日時：2017年3月7日（火）15:15～　場所：東京大学安田講堂
主催：女性未来農業創造研究会　特別協賛：公益財団法人イオンワンパーセントクラブ
申込みなど詳細はURL・QRコードにて：http://www.awable.org

◆農業の未来をつくる女性活躍経営体100選表彰（WAP100）

3/8

日時：2017年3月8日（水）13:00～　場所：よみうり大手町ホール
主催：（公社）日本農業法人協会
後援：農林水産省、内閣府男女共同参画局
協力：(株)日本政策金融公庫
申込みなど詳細はURL・QRコードにて：http://hojin.or.jp/standard/100/cat2389/38_h28.html

◆農業女子PJアワード2016

3/9

日時：2017年3月9日（木）13:00～　場所：丸ビルホール
主催：「農業女子ＰＪアワード2016」実行委員会
定員：先着300名
申込みなど詳細はURL・QRコードにて：https://nougyoujoshi.maff.go.jp/award/2016/